

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4170100632		
法人名	有限会社 佑紀苑		
事業所名	グループホーム佑紀苑 佐賀		
所在地	佐賀市兵庫町大字若宮 2125番地1		
自己評価作成日	平成28年 2月4日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.espa-shiencenter.org/preflist.html
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成28年 3月14日	外部評価確定日	平成28年3月29日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

四季折々の田園風景の中で、入居者の皆様は自然に親しみ、苑内の自然な明るさの中で、ゆっくりとした時間を過ごして頂いている。時には、思い思いのひと時を待ちながら、いつも苑内からは笑い声が聞こえてくる。職員は入居者の皆様のニーズに真摯に向き合い、今、持っている力を使って、出来る限り自立した生活がお出来になる様に支援を行っている。地域の皆様とのふれあいもあり、温かい支援を頂いている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

事業所は国道34号線沿いにある大型ショッピングセンターから車で10分程の、のどかな田園地帯の集落にある。地域にも溶け込み、住民との物心両面にわたる交流が保たれており、利用者は地域の敬老会や文化祭、春・秋のお遍路巡りのお接待等の行事に参加をしたり、事業所での敬老会やクリスマス会・コンサート等には地域住民や幼稚園児を招いて交流をしている。また、近隣の方からは季節の野菜を戴いたり、庭木の剪定や草取り等の協力も得ている。職員の多数が地元住民であることから、地域との繋がりが深められている。職員の異動も少なく、利用者との信頼関係が厚く、一人ひとりの残存機能や楽しみ事等を十分に把握し、理念の「地域の中の一つの家として」(安らぎと笑いのある楽しい生活)を實踐し、笑顔のある自分らしい生活が出来るよう支援している。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員がすぐに目につく場所に掲示している。入居者の皆様と楽しい生活を送りたいというスタッフの想いを理念に業務を遂行している。	理念の「『地域の中の一つの家として』やすらぎと笑いのある楽しい生活を私達とご一緒にしましょう」をスタッフ会議や朝夕の申し送りに唱和して、その理念を共有し支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には職員と一緒に参加したり、又苑での行事に地域の方を招待し交流を行っている。	地域公民館で開催される敬老会に職員と一緒に参加したり、春・秋のお遍路巡りのお接待に出掛けたり、苑で開催する敬老会・クリスマス会・コンサート・舞踊の会等には幼稚園児や地区の方々を招待する等交流を図って楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流を深め、入居者の方々と接するなかでご理解を頂くこともあり地域の皆様にも協力して頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の代表の方々、入居者、ご家族、地域包括より参加頂き2か月に1回運営推進会議を開催している。入居者の活動や状態報告を行い、助言を頂くこともあり、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、運営推進委員に自治会長・民生委員・老人会長等地域の代表に出席いただき、利用者の現状や双方向の情報を活発に交わし、苑の運営に生かしている。また、家族・利用者には順番に出席してもらっている。会の終了後の雑談の中にも貴重な意見をいただくことがあり、大切な機会としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの担当者には運営推進会議にも参加して頂いており、会議での報告や活動内容に対し助言を頂く事もあり情報交換も行っている。	地域包括支援センター職員は運営推進会議に出席いただいております。中部広域連合には運営委員会の会議録を提出し、苑の実情や活動状況を報告し協力関係を築くように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する資料は目につく場所に掲示している。研修や勉強会にて理解を深め、入居者が自分らしく笑顔で生活できるようケアに取り組んでいる。	全ての職員が身体拘束の弊害を理解しており、介護労働安定センターでの研修や県社協での研修等を受講してケアに取り組んでいる。日中は玄関の施錠もしていない。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する資料は目につく場所に掲示しており、研修にも参加している。入居者の心身の変化にもいち早く気づく事の出来る様努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修等で学ぶ機会もあり、必要に応じてそれらを活用出来る様支援を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約時、又は改定等の際は、施設長や管理者が書類を用いて説明を行っている。納得、理解を得たうえで署名頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者や家族の意見を尊重し過し易い環境作りに努めている。運営推進会議の際には交代で御家族と入居者に参加して頂き、意見や要望をお聞きするようになっている。	面会時には職員は近況報告をして気軽に話が出来ると雰囲気作りをしている。家族には月1回は必ず来ていただくように働きかけ、利用者の実情等を伝え、要望や意見等を聴くようにしている。運営推進会議にも交代で家族と利用者に出席してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝の申し送り時やミーティングの際などに職員からの提案や意見を聞き、話し合い反映するよう努めている。ミーティングには代表者も出席し状態の報告等もやっている。	月1回のミーティングには代表者も出席し、職員の意見や提案を聞く機会としている。日々の申し送りノートへの記載や随時管理者へ直接要望を言えるような体制づくりがなされており、代表者や管理者は運営等にも反映し活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務希望をとり、働きやすい環境作りに努めている。また子育て中の職員に対しても無理なくやりがいを持って働けるよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修へ参加した際には、定期ミーティングの際に勉強会を行い研修内容の報告、確認等を行い職員が周知徹底している。また資料については回覧や掲示を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修等で同業者と交流する機会があり、事例を通じての学びや意見交換を行いサービスの質を向上させていく取り組みを行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	見学に見えた際などには、実際に苑内をみて頂いたり体験入居も行っている。また本人の要望をできる限り反映し住み慣れた自宅になるべく近づける様環境作りを行い、安心して過して頂けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の想いに耳を傾け、入居者のみならず御家族にも安心して過して頂ける様関係づくりに努めている。また、面会時にも状態の報告を行うと共に要望をお聞きするようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者や御家族の要望を踏まえたうえで、どんな支援が必要か、支援を行うことで入居者が過し易くなるのか見極めよりよいケアを提供するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できる範囲内で、一緒に台所に立ったり洗濯物を干したりと共に生活しながら助け合い、また時には人生の先輩として教えを仰ぎそれぞれが協力して生活を行っている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族からの意見や要望に耳を傾け又、共に情報の交換を行い、協力しながら支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所との関係が途切れてしまわぬ様、外出・外泊の支援にも努めている。その際には、御家族の協力を頂いている。	利用者は近隣に住まれていた方が多いので、馴染みの知人・友人が気軽に会いに見えたり、日々の散歩中に近所の方に声掛けしてもらうことも多い。また、レストランへお楽しみランチに出かける等、家族の協力を得ながらの外出もできている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人が安心して楽しく過せるよう環境作りに努めている。時には、入居者同士のすれ違いもあるが孤立することないよう支援に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、御家族宅を訪問したり、つながりが途切れることのない様努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ケアプラン作成時には、本人や御家族の希望をお聞きし、又、今迄の生活歴や趣味など情報を記入して頂き、その人らしく安心して生活できる様努めている。	職員は日々の関わりの中から意向や希望の把握に努めている。特に入浴介助や傍らに寄り添って話をしている時に利用者の思いを知ることができている。把握した意向や希望は、個別記録に記され、職員間で共有を図っている。また、家族から今までの生活歴や趣味等を聞き、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に記入して頂いた情報をもとに、普段の会話の中や御家族の面会時などに話しを伺い、暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	共に生活する中で、出来る事はして頂いたり、その時の体調や気分配慮しながらその人らしく一日一日を楽しく過せるよ現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	体調や状態に変化があった際には御家族や多職種との話し合いを行い現状に即した介護計画を作成している。又、ちょっとした変化でもスタッフ間で話し合い、よりよく暮らせるよう努めている。	利用者に対して職員は担当制を取っているが、ケアの在り方については職員全員が共有しており、家族や看護師・栄養士の意見等も組み入れ、現状に即した介護計画の作成をしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態はもちろん、その時に言われた言葉やそれに対する気づき、対応の仕方など個別記録や申し送り簿にも記入しスタッフ間で情報を共有し、見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状態や気分にも配慮しながら、常に理念を念頭におき、柔軟な支援を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区域ないの文化祭に参加し、作品を出展させて頂いたり、地域の清掃活動等に参加し心身の力を発揮しながら安全な豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望で継続して、かかりつけ医を利用されている方もおり、受診時にはバイタル表を用いて状態の報告を行っている。また往診を利用されている方もおり、急変時でも直ぐに対応出来るよう関係が築けている。	本人や家族の希望でかかりつけ医を利用している利用者には、日々のバイタル表を持参して受診してもらっている。また、協力医は24時間対応できるようになっており、2週間に1回は往診してもらえるような体制づくりがなされている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態に変化があった場合、看護職員への状態を伝え緊急を要する場合には、主治医と連絡をとり適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	安心して治療を受けられるよう、入院時には苑での生活状況など情報を提供し、又、慣れない環境で不安や混乱がない様、面会にも行き、その際にもまた病院関係者と情報の交換を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	体調等に著しく変化があった場合など本人や家族、担当医・看護師含め今後についての話し合いを行っている。入居時には重度化した場合における対応に係る指針・ターミナルケアの指針を本人や家族へ説明し同意を得ている。	入居時に重度化した場合の指針を家族や本人に説明して同意を得ている。今年度2名の看取りを家族の希望で行い、全職員で支援をした実績がある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を受け、報告書や資料を用いてミーティングの際や朝の申し送り時など勉強会を行ったり、事務所内に急変時マニュアルを掲示している。また、担当医・看護師に日々の状態報告を行うとともに急変時の対応等も指導を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練又は消火訓練を実施している。消防署から消防隊員の派遣をお願いし、指導を受けている。その際には、地域の方へも声かけし参加して頂いている。また、体操時には災害に備えて立ち上がりの訓練を行っている。	年2回避難訓練や夜間想定消火訓練を消防署・地域消防団員の指導により実施している。近隣の方の参加もあり協力を得ている。火災通報装置やスプリンクラーも整備され、職員への通報一覧や市からの防災マップも掲示している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人がその人らしく生活できるよう言葉掛けや環境作りに努めている。個人情報に関しては、誓約書を交わし対応している。	日々の関わりの中で、一人ひとりがその人らしい生活ができるよう言葉かけや環境作り等に努めている。暮らしぶりの写真集の閲覧については、家族にも承諾を得ており、個人情報に関して職員からの誓約書も得ている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常会話の中からも入居者の思いや希望を引き出したり、自己決定が出来るよう言葉かけを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調や気分配慮しながら無理のない様、一人一人のペースでゆっくり過ぎて頂けるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2カ月に1回、美容師の方に来て頂きカットやパーマを行っている。また、その日着る洋服は御自分で選んで頂いたり行事等の際には化粧をしたり支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	好みに合わせ、工夫をしたり季節のものを取り入れたり食事を楽しむこと出来るよう支援している。食事の準備など出来ることは、入居者の皆様にも手伝って頂き支援している。	食事が楽しみなものになるよう一人ひとりができることを手伝っている。献立は栄養士立案だが、利用者の希望や好みを取り入れ、当日のメニューをホワイトボードでお知らせして職員も食事介助をしながら一緒に食事をしている。誕生日には本人の好きな物を用意し、家族の来苑もお願いして、共に楽しい時間が過ごせるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士にてバランスの摂れた食事の提供が出来ている。一人一人の状態にあわせ食事形態も工夫し、バランスいい食事が摂れるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	日々の口腔ケアは勿論、週に1回、歯科医の方がお見えになり口腔内の状態をみて頂いている。また、義歯洗浄も行い、清潔の保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表にて一人一人の排泄パターンを把握し、早目のトイレ誘導を行ったり力を活かした自立に向けた支援を行っている。	排泄チェック表を利用して一人ひとりの排泄パターンを把握して日中はトイレ誘導に心掛けている。リハビリパンツから布パンツへと移行できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	バランスの摂れた食事や水分摂取にて予防に取り組んでいる。また、体調に配慮しながら体操や時には散歩へも出ている。慢性的な便秘の入居者には、担当医に相談し下剤にて調節を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	気分や体調に配慮しながら一人一人が気持ちよく入浴できるよう支援している。また、個々とゆっくり向きあうことができる時間でもあり、大切にしている。	入浴は2日に1回としているが、個々人の体調に配慮しながら対応している。時には4～5人一緒に足浴をしてゆったりした時間を持つ等の支援もしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりがゆっくりと自分らしく生活出来るよう環境作りに努めている。気分や体調にも配慮しながら安心して過ごすことができるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更や新しく処方された薬があった場合必ず申し送りを行い情報の共有を行っている。また、服薬後の状態についても記録に記入し必要があれば担当医への相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが、その人らしく毎日過ごすことができるよう生活歴や本人や家族からの話しをもとに支援を行ったり、状態や気分配慮しながら役割をもって頂いている。またレクリエーションや外出で気分転換等の支援を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人ひとりの状態に配慮しながら、外出の支援を行っている。買物へと出掛けたり、季節を感じて頂けるよう花見へと出掛けたり、又、家族の協力を得て墓参りや外食などの支援を行っている。	気候が良い時は苑の周辺を散歩し、近所の方と会話したり、近くの公園へ花見に出掛けたり、ショッピングセンターへの買い物やランチに出掛けている。また、家族の協力を得て、法事やお墓詣りに行く利用者もいる等本人の希望に沿った外出支援を行っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じ、苑で預かったり希望があれば使えるよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話をかけたり、また家族から連絡があった場合にもやりとりが出来るよう支援している。家族からの送り物があった場合には、お礼の電話を一緒にかけたり、会話が出来よう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一人ひとりが気持ち良く過せるよう環境整備に努めている。リビング内に季節の花を飾ったり、毎月壁画を皆様で作り飾ったりと不快や混乱をまねく刺激がないよう工夫している。	毎日の日課の中に掃除の時間を設け、居室からリビングまでを全員で掃除することとしており、利用者が気持ち良く過ごせるよう環境整備をしている。共用の空間も清潔で、不快な臭い等もなく、壁面には季節の飾り物や絵画を貼り、時計や日付等も大きく配置して居心地よく過ごせる工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが思い思いに過せるようソファールをおいたり、席の配置や環境作りに努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や気に入った物などを配置したり、本人が居心地よく過せるよう工夫している。また、家族の写真や手紙などを飾ったりしている。	居室には、本人が使い慣れた整理ダンスや椅子等を持ち込み、家族の写真や人形を置き、手紙や絵を壁面に飾る等、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境の中でそれぞれが持っている能力を十分に発揮し生活が送れるよう工夫している。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない